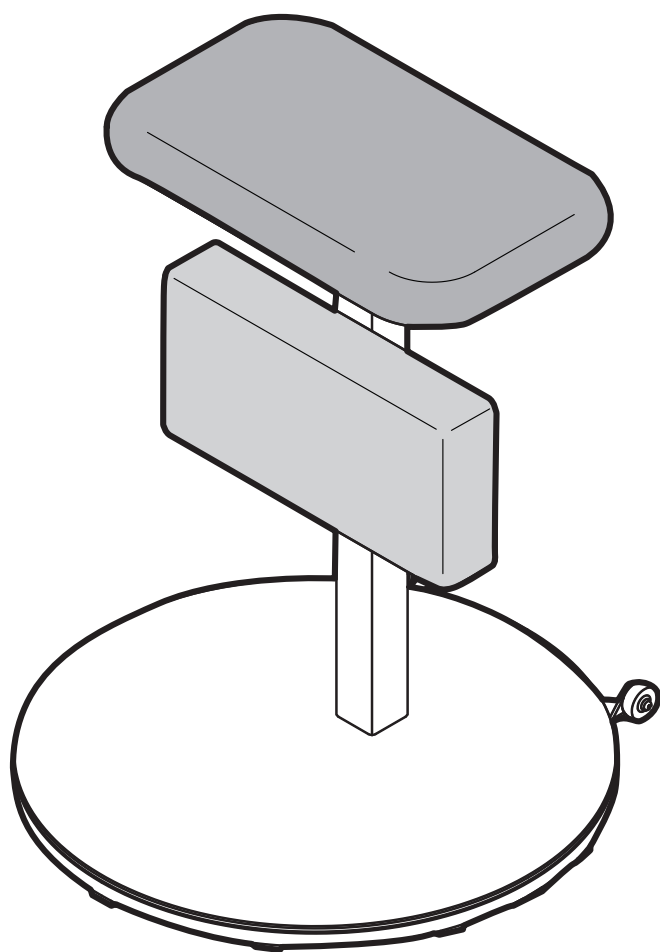


取扱説明書

たちあっぷ® ひざたちちC 回転式

品番：CKL-02



たちあっぷ ひざたちち C 回転式
CKL-02

目次

！ 安全に関する表示	2
1. 使用上のご注意	2
2. ご使用方法	4
3. 回転方法	6
4. 設置上のご注意	7
5. 仕様	8
6. 部品表	8
7. テーブルの高さ調整	9
8. ロック機構 メンテナンス方法	10
9. お手入れ方法	10

お買い上げありがとうございます

「たちあっぷ ひざたちち C 回転式」は寝室やトイレなどでの立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助をする用具です。

販売店様：この説明書は必ずお客様に説明してからお渡してください。

使用者様：使用前にこの説明書を必ずお読みになり大切に保管してください。

！安全に関する表示

※いずれも安全に関する内容ですので必ず守ってください。

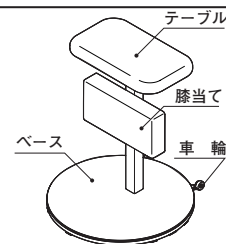
警告	誤った使用をされた場合、「死亡や重傷につながる可能性がある」内容を警告しています。		記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。
注意	誤った使用をされた場合、「傷害や財産への障害につながる可能性がある」内容を注意しています。		記号は、必ず行っていただく「強制」の内容です。

1. 使用上のご注意

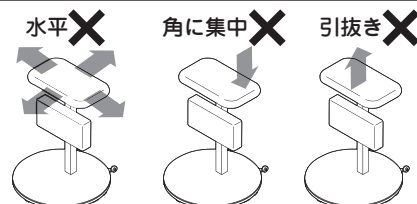
警告

●立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助以外の用途では使用しない。
踏み台・いすなどの用途では使用しないでください。

●テーブルは、上半身を支える以外の用途では使用しない。
また、膝当ては、膝を当てる以外の用途では使用しない。
テーブルに腰掛けたり、物を置いたり、また膝当てにも物を置いたりしないでください。
本来の使用用途以外の使い方をされますと、本体が倒れるなどの事故のおそれがあります。

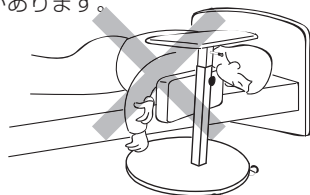


●水平方向に極端に力がかかる使用やテーブルの角に集中する力がかかる使用をしない。また、テーブルを上引き抜く方向に力がかかる使用はしない。
上記のような力掛けると本体が不安定になり、本体が倒れるなど事故のおそれがあります。ベースが持ち上がり床面とのすき間が発生するような使用はしないでください。

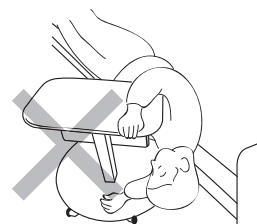


●子供の遊具として使用しない。
本体が倒れたり、手をはさむなど想定外の事故のおそれがあります。

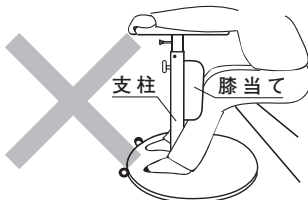
●テーブルと膝当ての間に頭や手、脚を入れない。
はさまった場合などにケガ・骨折や窒息の重大事故につながるおそれがあります。



●本体とベッドの間や、本体と便器の間などに身体を入れない。
はさまった場合などにケガ・骨折や窒息の重大事故につながるおそれがあります。



●つま先を膝当てより極端に前に出して使用しない。
つま先が膝当てより極端に前に出ると脚が支柱に接触します。この状態で使用すると脚と支柱がからんで脚がねじれる場合があります。なるべくつま先が膝当てより前に出ないようにしてください。



●車輪側から使用しない。
車輪側からの使用を想定していません。本体が不安定になり膝を膝当てのクッションに当てられません。本体が倒れたり、ケガをするおそれがありますので、必ず膝当て側からご使用ください。



●必ず介護者が付き添った状態で使用する。
介護者が一時的に目を離したりする際は利用者の安全を十分ご確認の上で対応ください。

●固定式ではないため、設置後の安定性、利用者の身体状況を確認の上で使用する。

●利用者の健康状態や体調が変化した場合は直ちに使用をやめる。
ご利用を再開される場合は、介護者が利用者の状態を確認した上でご使用ください。

●本体や床面が濡れている場合は水分を拭き取って使用する。
滑って転倒するおそれや、製品が変色する場合があります。特にベースやテーブルは水分を拭き取って使用してください。

●ご使用の際は、必ず本体のベースに体重が掛かった状態でテーブルに力を加える。

●車いすでご使用の際は、必ず車いすのブレーキをかける。
車いすが動いて転倒のおそれがあります。



禁止



必ず守る

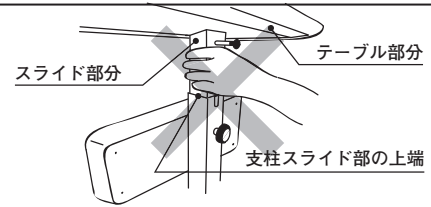
⚠ 注意



●2人以上同時に使用しない。本製品は1人用です。

●利用者体重が100kgを超える場合は使用しない。使用中に破損するおそれがあります。

●高さ調整を行う際は、スライド部分をつかんだり、支柱スライド部の上端に手を置いたりしない。
手・指をはさみ、ケガをするおそれがあります。高さ調整を行う際は、テーブル部分を持って行ってください。

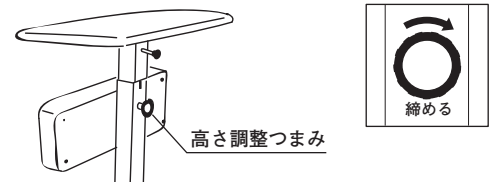


●車いすでご使用の際は、車いすをベースに乗り上げた状態で使用しない。
車いすがベースに乗り上げた状態で使用すると、不安定になり転倒の原因になります。

●ご使用の際は介護者が利用者の状態（安全に使用できる状態にあるか）を確認する。
ご使用に合わない場合は直ちにご使用をおやめください。

●水平な床面に設置し、ガタツキがない状態を確認して使用する。
上記以外で使用された場合、回転機構に支障が出る場合があります。

●ご使用前には、高さ調整つまみがしっかりと締め付けられ、ガタツキがないことを確認する。



●回転ロックの解除とベースの回転は必ず介護者が行う。

●利用者がベースに乗って回転する際以外は必ずベースの回転をロックする。
ベースがロックされていない状態で使用すると破損やケガ、事故の原因になります。
利用開始時にロックがかかっていることを確認してください。

●手・脚・靴底などが濡れたまま使用しない。滑って転倒するおそれがあります。

●裏面が平らなスリッパや厚手の靴下での使用は滑る場合があるので注意する。

●ベースにはマットを貼り付けた状態で使用する。ご使用中にマットがめくれたり、たるみができた場合は整えてから使用する。マットにめくれやたるみがあるとつまずいて転倒するおそれがあります。

●すり足で歩くとマットがめくれる場合があるので注意する。常時すり足でご使用になる場合は転倒に注意してください。



●移動させる際はつまみやねじのゆるみがないか、ベースの回転機構がロックされているかを確認する。
ベースが落下するおそれがありますので、ねじをしっかり締めた状態で移動してください。

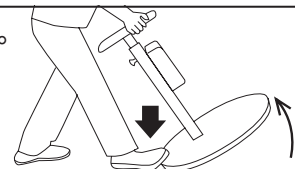
●車輪で移動させる場合は本体を45°程度傾け、車輪が床面に接した状態で移動させる。

車輪を使って移動させる際は、テーブルを持って傾け、車輪が床面に接したことを確認し、床面の状態や周囲の状況を確認して移動してください。
無理に引きずりますと床面を傷つけたり、ベースマットがめくれたりするおそれがあります。

また、持ち上げて移動させる場合、テーブル部分を持ち上げますと高さ調整つまみやねじのゆるみなどでベースが落下し指などを挟むおそれがあります。
ベース部分を持ち上げて移動させてください。



●移動のため本体を傾ける場合は、必ずベースを踏みながらゆっくりと傾ける。
また設置する際にもベースを踏みながらゆっくりとおろす。
傾ける、移動する際には脚の上に本体を落とさないよう、気を付けてください。



●車輪の上に乗らない。また、車輪につまずかないように注意する。

●結露した場合は乾いた布などで拭き取る。

室内環境によって金属部品に結露が発生する場合があります。滑って転倒の原因や、床面などにカビを発生させる原因になりますので常に拭き取ってご使用ください。

●製品に異常を見つけた場合は使用を中止する。

正しく設置できない場合や機能を損なう状態の場合は直ちにご使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

2. ご使用方法

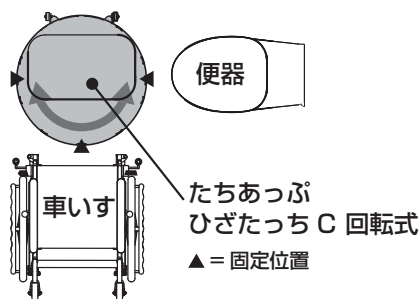
「たちあっぷ ひざたち C 回転式」は、「大きなテーブル」と「膝当て」により、利用者が前に倒れる心配がなく、抱え上げ介助をなくして介助者の負担を軽減します。トイレや脱衣室・ベッドサイドでの「立ち上がり補助・姿勢保持・移乗補助」にご使用ください。

□移乗介助の例①（車いすからトイレへ）

「たちあっぷ ひざたち C 回転式」を使用した、車いすからトイレへの「移乗介助」手順の一例です。

※実際の動作は、利用者の状態や利用状況に合わせてご使用ください。

- 1.** 本体は車いすの正面にくるように配置します。
■ 便座に座った際に、膝が膝当てに触れる位置がベストです。高さは利用者の体格と症状に合わせて調整してください。（車いすのブレーキがかかっていること、アームレスト・フットレストがある場合は移乗の妨げにならないか確認してください。）



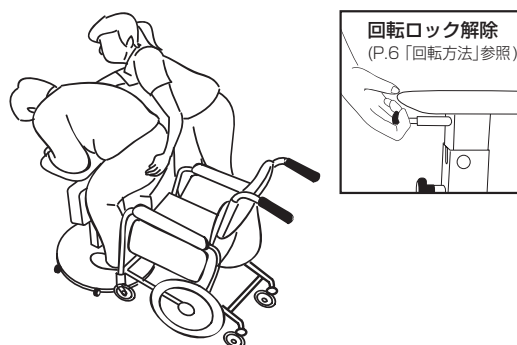
- 2.** 利用者にテーブルをつかんでもらい、足をベースの上に置きます。つま先が膝当てよりも前に出ていないこと、かかとがベースから出ていないことを確認してください。



- 3.** 利用者にテーブルで体を支えてもらい、利用者の腹部と臀部を支えながら車いすに浅座りしてもらいます。



- 4.** 片手で利用者のお尻を持ち上げテーブルで体を支えている間にもう片方の手で回転のロックを外します。利用者のお尻を支えながらまわりの障害物等に気を付けて回転させます。



- 5.** 利用者にテーブルで体を支えてもらっている間に、下着をおろします。



- 6.** 利用者の腰を支えながらゆっくりと便座に腰掛けてもらいます。

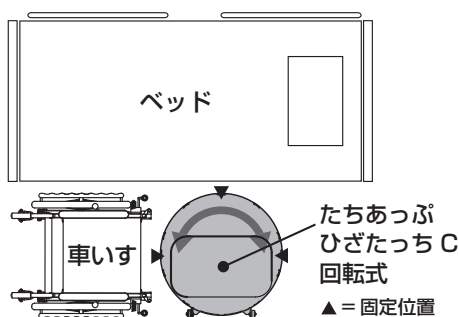


□移乗介助の例②（ベッドから車いすへ）

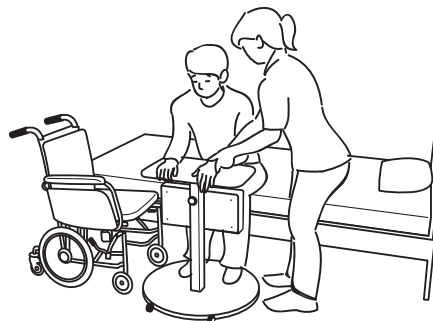
「たちあつぷ ひざたちち C 回転式」を使用したベッドから車いすへの「移乗介助」手順の一例です。

※実際の動作は、利用者の状態や利用状況に合わせてご使用ください。車いすを使用する際は、必ずブレーキをかけてご使用ください。

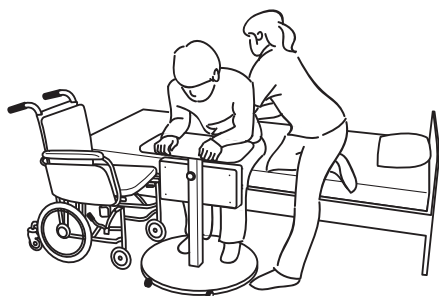
- 1.** ベッドと車いすの正面に固定位置が来るように設置します。
■ 浅座りをして、膝が膝当てに触れる位置がベストです。
高さは利用者の体格と症状に合わせて調整してください。
（車いすにアームレスト・フットレストがある場合は
移乗の妨げにならないか確認してください。）



- 2.** 利用者に端座位をとってもらい、移乗開始です。
まずはテーブルに手について前傾姿勢をとってもらいます。
つま先が膝当てよりも前に出ていないこと、かかとが
ベースから出ていないことを確認してください。



- 3.** 介助者はベッドに脚をかけて、利用者の腹部と臀部
を支えながら、利用者に浅座りをしてもらいます。



- 4.** 利用者に合図をして立ち上がってもらいます。
この際、利用者の上体を前方（斜め上）へ押すと
腰が浮きやすくなります。前に倒れる心配がなく、
膝折れも防止でき、立ち上がりが容易になります。



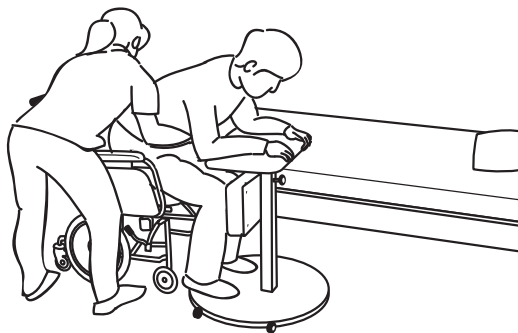
- 5.** 利用者がしっかりベースに乗っていることを確認し、
そのまま体を支えながら、テーブル背面の解除レバー
を引き、回転ロックを解除します。利用者の体を支え
ながら「たちあつぷ ひざたちち C」を回転させます。



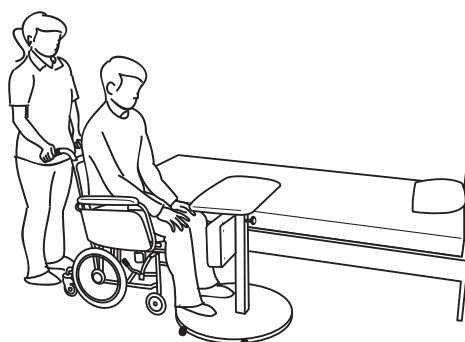
- 6.** 移乗先についたら、自動の回転ロックがかかったこと
を確認してゆっくり腰をおろしてもらいます。
移乗の際は、移乗先に一気に深く腰掛けるのではなく、
まずは浅座りをします。（次ページに続きます）



- 7.** 利用者に合図をして、腰が上がったタイミングに合わせて、臀部を支えながら深く腰をかけていただきます。

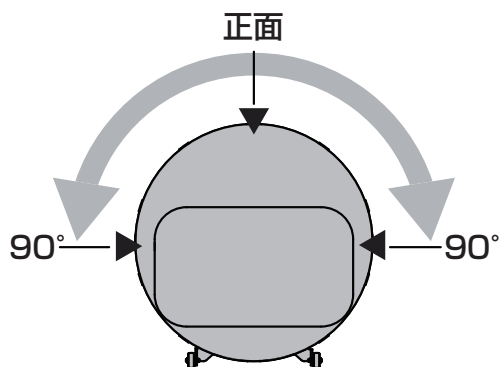


- 8.** しっかり移乗できたことを確認して、利用者に手をテーブルから離してもらいます。腰への負担が少なく方向転換もでき、簡単に移乗することができます。

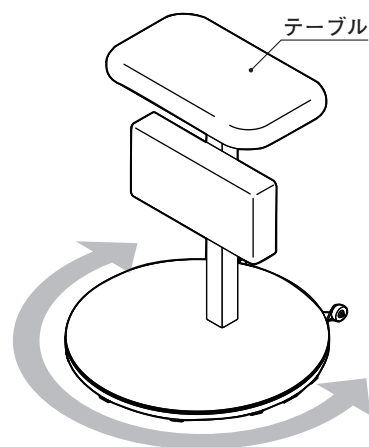


3. 回転方法

「たちあっぷ ひざたち C 回転式」は正面から左右に 90° ずつ回転します。テーブル裏のつまみを引くことで固定のロックが解除し、ベースごと回転します。固定位置では自動でロックがかかります。

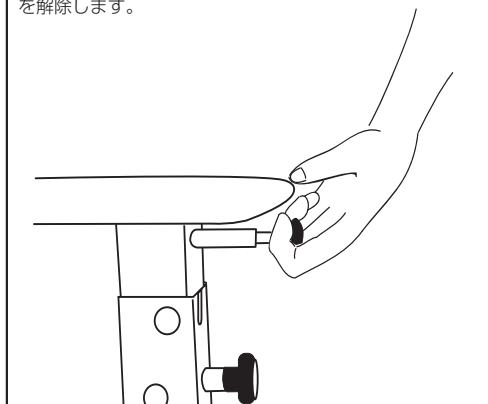


▲ = 固定位置



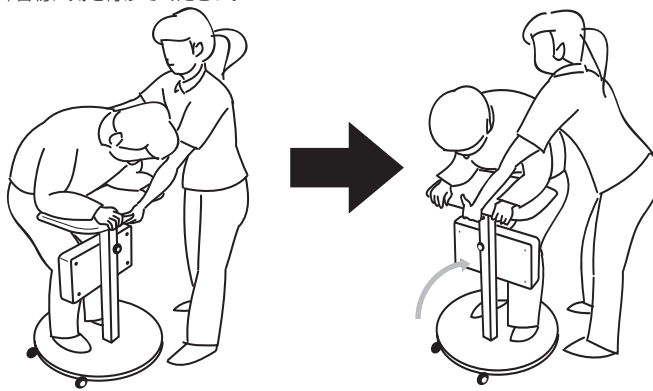
回転方法①

テーブル裏にあるつまみを手前に引き、ベースのロックを解除します。



回転方法②

利用者のお尻を支えながら回転させます。
※周囲の障害物に気を付けてください。



⚠ 注意



必ず守る

- 回転させる際には利用者の安全を確保しながらゆっくり回す。
早く回転させると利用者が転倒するおそれがあります。
- 利用者のかかとかがベースからはみ出していないことを確認する。
回転した時に、車いすの車輪などがあたってケガをするおそれがあります。

4. 設置上のご注意

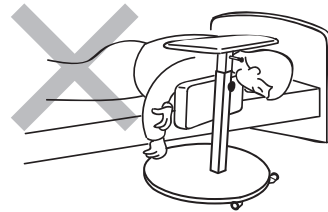
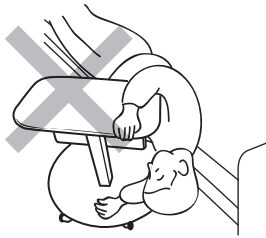
⚠ 警告



禁止

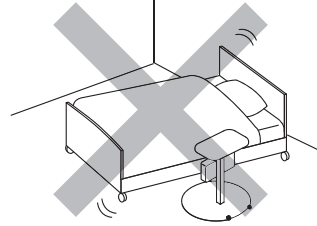
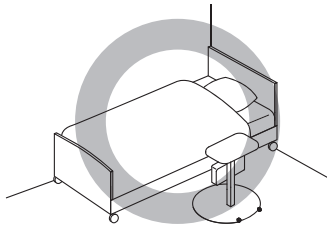
- 弊社製品と他社製品を組み合わせた構造物を製作しない。
破損やケガの原因になります。また、他社製品と組み合わせた製作物の安全は保証できません。
- 改造・加工は絶対に行わない。
事故の原因になります。

- 設置後ガタツキ、ねじのゆるみ、締め忘れがないことを必ず確認する。
- ベッドサイドに置く場合は、「たちあっぷ ひざたちC 回転式」と布団・マットレス・サイドレールのすき間に頭や首、手、脚を入れないように注意する。
身体をすき間にはさむと窒息や骨折などの重大事故につながるおそれがあります。



必ず守る

- キャスター付きのベッドで使用する場合は、必ずキャスターを固定する。
キャスターにロック機構がある場合は必ず使用してください。ロック機構がない場合には、キャスターホルダーを使用するなど、必ずベッドが動かないように固定してください。(ベッドは壁に接するように設置すると安定します)



- 電動ベッドで使用する場合は、頭や手・脚がはさまった状態で操作すると、身体の障害や生命にかかわる事故を発生させるおそれがあるので注意する。
電動ベッドで使用する場合は、利用者の身体がはさまらない安全な間隔で設置してお使いください。
また、電動ベッドの手元スイッチは無意識に触れて誤操作しないように置く場所には十分注意してください。

⚠ 注意



禁止

- 屋外や直射日光の当たる場所で使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。また変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。
- 火のそばでは使用しない。
金属部分が熱くなり火傷の原因になります。また変質・軟化・変形または破損するおそれがあります。
- 浴室・浴そう内では使用しない。



必ず守る

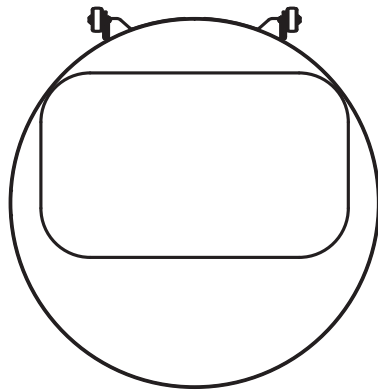
- 室内で使用する。
- 平らで水平な場所で使用する。
- 製品は直射日光の当たらない乾燥した常温の室内で保管する。
高温多湿の場所で保管しますと、変形や結合部の外れの原因になります。
- 定期的(推奨点検期間1カ月ごと)にガタツキ・ねじのゆるみ・締め忘れ・部品の破損・マットのめくれ・その他異常がないことを確認する。



メモ

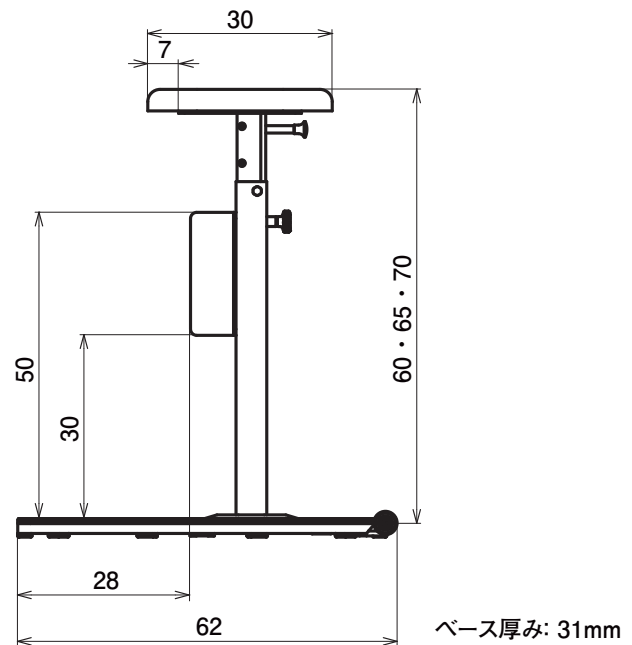
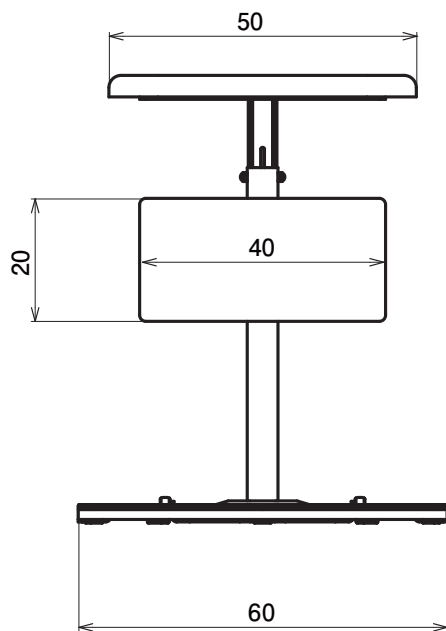
- クッションフロア材(塩化ビニル製など)の上に長時間放置するとクッションフロア材にへこみや色移りする場合があります。

5. 仕様



単位：cm

品名	たちあっぷひざたちC 回転式	
品番	CKL-02	
質量	23kg	
材 質	本 体	ステンレス、アルミ
	テーブル 膝当て	樹 脂
	マット	樹 脂
	車 輪	樹 脂



6. 部品表

「たちあっぷ ひざたちC 回転式 本体」と「スパナ」が揃っていることを確認してください。
不足している場合は直ちにお買い上げの販売店へご連絡ください。

	名称	部品図	材質
①	たちあっぷ ひざたちC 回転式 本体		ステンレス(主要本体：支柱・ベース他) ステンレス (ねじ) 樹脂(テーブル・膝当て・車輪)
②	スパナ		スチール

7. テーブルの高さ調整

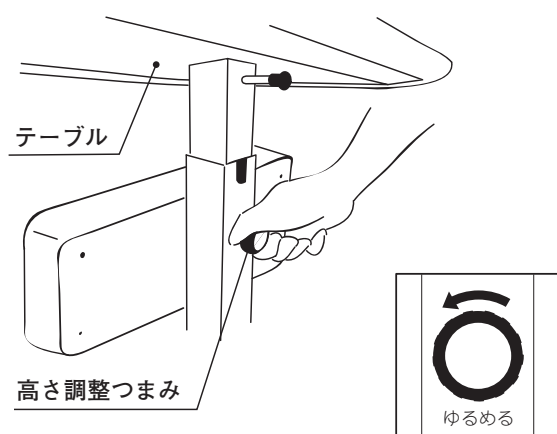
テーブルの高さは、60cm・65cm・70cmの3段階に設定できます。利用者の体格や症状に合わせて調整してご使用ください。
※開梱時は最低高さの60cmにセットされています。

7-1. テーブルの高さ調整

⚠ 注意	
 禁止	●高さ調整を行う際は、スライド部分をつかんだり、支柱スライド部の上端に手を置いたりしない。手・指をはさみ、ケガをするおそれがあります。高さ調整を行う際は、テーブル部分を持って行ってください。
	●テーブルに利用者の体重がかかっている状態で高さ調整をしない。重みでテーブルが落下し、ケガをするおそれがあります。

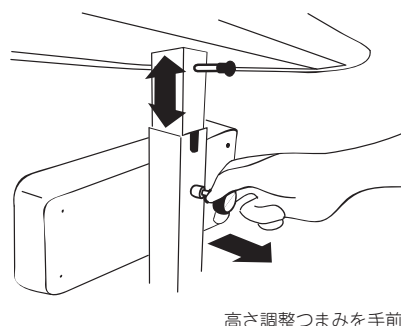
高さ調整手順 ①

まず、高さ調整つまみを左に1～2回転して、ねじをゆるめます。



高さ調整手順 ②

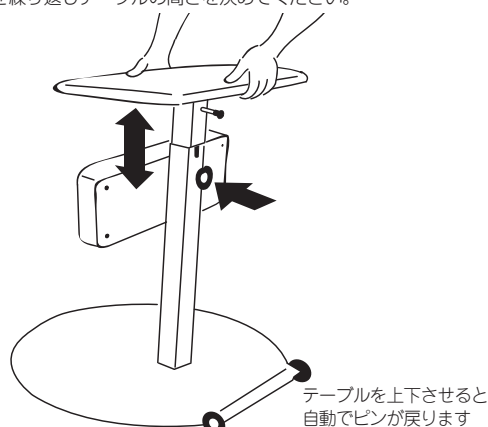
片方の手でテーブルを持ちながら、高さ調整つまみを手前に引きます。高さ調整つまみを引くとテーブルの固定ピンが解除され、テーブルが上下に動くようになります。テーブルが動きしたら高さ調整つまみを離して構いません。



注：テーブルの上下調整は、必ずテーブルを持ちながら行ってください。テーブルが勢いよく下がる場合があります。

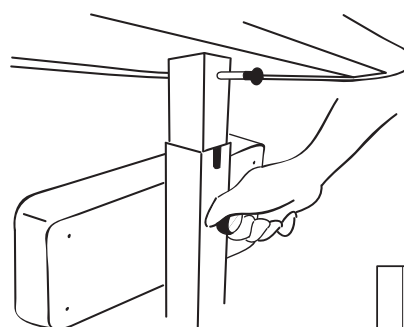
高さ調整手順 ③

テーブルを上下させると固定ピンが自動で戻り、位置決めされます。（調整できるテーブルの高さは60・65・70cmの3段階です）
②の操作を繰り返しテーブルの高さを決めてください。



高さ調整手順 ④

高さが決まりましたら、固定ピンが戻ったことを確認して高さ調整つまみを右に回してねじを締めます。



注：必要以上に締め付けると、ねじを破損させる原因になりますのでご注意ください。

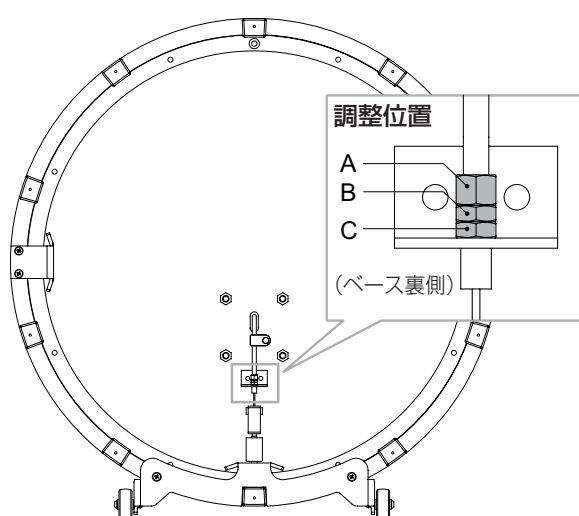
7-2. 調整後の確認

最後に全体のカタツキや高さ調整つまみのゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意	
 必ず守る	●調整後、高さ調整つまみがしっかりと締め付けられ、テーブル部分にガタツキがないことを確認する。 取り付けが不十分だと、使用中にテーブルが下がるなどの事故やケガの原因になります。

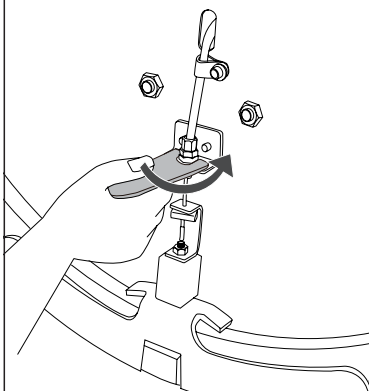
8. ロック機構 メンテナンス方法

ベースのロック / ロック解除ができなくなった際は下記の方法で調整をしてください。



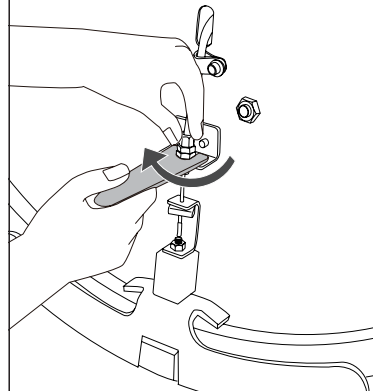
ロック調整手順 ①

添付工具の 10mm スパナを使用し C のナットを回して全体をゆるめます。



ロック調整手順 ②

A を指でつまみ回らないように固定しながら C を締め、次に B を締めます。



調整を行ってもロックがかからない場合はお買い上げの販売店までご相談ください。

9. お手入れ方法

9-1. 日常のお手入れ

- 水か中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭いてください。

⚠ 注意



禁止

- シンナー・ベンジンなどは使用しない。
変質して破損するおそれがあります。

- たわしや磨き粉で磨かない。
傷がつくおそれがあります。



必ず守る

- 直射日光を避けて陰干しする。

9-2. 点検

- 定期的 (推奨点検期間 1 カ月毎) に点検を行ない、ガタツキ・ねじのゆるみ・締め忘れ・部品の破損・マットのめくれ・その他異常がないことを確認してください。
- 回転が悪くなった場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

注. クッションフロア材 (塩化ビニル製) などの上に長時間設置するとクッションフロア材にへこみや色移りする場合があります。

⚠ 注意



必ず守る

- 定期的 (推奨点検期間 1 カ月ごと) にガタツキ・ねじのゆるみ・締め忘れ・部品の破損・マットのめくれ・その他異常がないことを確認する。
異常があった場合は、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店へご相談ください。

9-3. 消毒方法

- アルコール清拭消毒、逆性石鹼清拭消毒などを推奨します。
この製品に使用している素材の物性を考慮した消毒方法を選択してください。
- 塩素系の消毒液を使用する場合は、使用する商品の使用方法及び使用上の注意に従い、希釈して使用してください。
(参考: 次亜塩素酸 6% 水溶液なら 120 ~ 300 倍程度に希釈)

⚠ 注意



禁止

- オゾンガス、ホルムアルデヒドガスは使用しない。
変質して破損するおそれがあります。

保 証 書

お 客 様	お 名 前	様
	ご 住 所	〒
	電 話	— —
対 象 商 品		
口 ッ ト 番 号		
お 買 い 上 げ 日		(西暦) 年 月 日
販 売 店		住所 店名 電話 — —

無料修理規定

1. 保証の適用

取扱説明書等の注意事項にしたがった正常な使用状態で本品の不良による著しい変形・破損・ゆるみ・はずれ・割れの故障が発生した場合には無料修理させていただきます。

2. 保証の期間

保証の期間は、お買い上げ日より起算し、1年間の経過日までとします。

3. 免責事項

次に該当する場合、保証期間内であっても保証対象外となります。

ただし、お客様のご要望により有料にて修理対応させていただきます。

- ① .お客様が適切な使用、維持管理を行わなかったことによる故障及び損傷等の不具合。
- ② .お買い上げ後の輸送または、移動時の落下など、お取扱いが不適当なために生じた使用上の誤り、お客様の改造による故障及び損傷。
- ③ .カタログ、取扱説明書などに記載されている以外の不適当な条件、環境、取り扱い、使用方法などに起因した故障の場合。
- ④ .弊社製品の改造及び弊社製品以外の製品を接続したことに起因する場合。
- ⑤ .弊社または弊社の指定業者以外が修理・改造したことに起因する場合。
- ⑥ .取扱説明書、カタログなどに記載されている消耗部品などが正しく保守交換されていなかったことに起因する場合
- ⑦ .自然特性または、通常の経年変化に起因する摩耗・退色・変色などによるもので使用上支障のないもの。
- ⑧ .使用に伴う摩耗等による外観上の不具合。
- ⑨ .海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の環境に起因する不具合。
- ⑩ .温泉水、井戸水などであって、飲料水の水質基準に適合しない水を使用したことに起因する不具合。
- ⑪ .火災・地震・水害・落雷・噴火・津波等その他天災地変などによる自然現象に起因し、被害をうけたもの。
- ⑫ .動物、昆虫等の生物の行為に起因する不具合。
- ⑬ .保証期間経過後に申し出されたもの、または保証該当事項の発生後すみやかに申し出のなかったもの。
- ⑭ .本書のご提示がない場合。
- ⑮ .本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。

以上の内容は、日本国内での取引及びご使用を前提とします。

なお、この保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

<連絡先>

お客さま相談室

 **0120-054-280** FAX **0120-054-281**

● フリーダイヤル 9:00～16:00 (月～金) ● FAX 24時間毎日

矢崎化工株式会社 〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿2-24-1

※製品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

● 矢崎化工株式会社

介護支援ページ
kaigo-web

<http://www.kaigo-web.info/>

■ 本 社 〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿 2-24-1

■ 北 海 道 支 店 福祉介護機器課
〒072-0007 北海道美幌市東 6 条北 8-2-1
TEL 0126(63)4285 FAX 0126(63)4459

■ 神 奈 川 支 店 福祉介護機器課
〒257-0024 神奈川県秦野市名古木 3-4
TEL 0463(81)4315 FAX 0463(81)4316

■ 広 島 支 店 福祉介護機器課
〒738-0042 広島県廿日市市地御前 1-7-17
TEL 0829(36)1111 FAX 0829(36)3890

■ 仙 台 支 店 福祉介護機器課
〒981-1223 宮城県名取市下余田字中荷 280
TEL 022(382)2145 FAX 022(382)1099

■ 静 岡 支 店 福祉介護機器課
〒422-8519 静岡県静岡市駿河区小鹿 2-24-1
TEL 054(286)1101 FAX 054(286)3988

■ 高 松 支 店 福祉介護機器課
〒761-8058 香川県高松市勅使町 227
TEL 087(866)6411 FAX 087(867)1916

■ 関 東 支 店 福祉介護機器課
〒373-0823 群馬県太田市西矢島町 88
TEL 0276(38)1511 FAX 0276(38)3522

■ 名 古 屋 支 店 福祉介護機器課
〒484-0963 愛知県犬山市字鶴池 48-2
TEL 0568(67)0111 FAX 0568(67)7219

■ 九 州 支 店 福祉介護機器課
〒820-0702 福岡県飯塚市平塚 481-1
TEL 0948(72)0310 FAX 0948(72)4026

■ 東 京 支 店 福祉介護機器課
〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田 1-38-3
TEL 04(2944)7113 FAX 04(2944)7007

■ 大 阪 支 店 福祉介護機器課
〒569-8551 大阪府高槻市大塚町 5-1-1
TEL 072(672)8440 FAX 072(673)8822

17031703

DW-238-00